

令和6年度九州地区国立大学法人
 障害者支援に関する大学間連携プログラムによる研修会
 『知ろう☆やろう☆広めよう☆ノートテイク!』地域×大学 2024/8/21(水)
 アンケート結果 (35名回答)

1. 大学間連携プログラム全体の満足度について、当てはまる数字を選び、その理由も教えてください。

(1) 大学間連携プログラムによる研修会全体

5：とても満足している 4：やや満足している 3：どちらでもない 2：やや不満である 1：とても不満である

	5	4	3	2	1	未参加
(1) 大学間連携プログラムによる研修会全体	35					
(2) お互いの大学を知る WAKUWAKU タイム	25	9	1			
(3) 研修Ⅰ 講義：障がい学生支援について	31	4				
(4) 研修Ⅰ 講義：聴覚障がい者支援について	31	4				
(5) 研修Ⅰ 講義：地域におけるノートテイク	32	3				
(6) 研修Ⅰ 講義：大学におけるノートテイク	32	3				
(7) 研修Ⅰ 講義：ノートテイクとの出会い	33	2				
(8) 研修Ⅱ 演習・グループワーク <small>※参加した方のみ記入</small>	28	1				6

満足度の理由 (一部抜粋)

(1) 大学間連携プログラムによる研修会全体

- ・情報保障、ノートテイクについては深く勉強することができました。参加の学生も、研修で
 すぎる向上するだけでなく、他大学との交流を通して視点が広がったと思います。
- ・障害学生支援、特に情報保障のあり方について理解を深めることができました。
- ・初めて他大の方々と交流できて、新たな視点を獲得することができた。演習を含めて充実した内
 容でとても勉強になった。

(2) お互いの大学を知る WAKUWAKU タイム

- ・学生同士が生き生きと交流していたのが非常に良かったです。
- ・他大学で実施されている活動について知ることができた。グループで話すことで、後の演習
 も会話しながら協力できた。
- ・具体的なとりくみ、また、工夫などを、行っている人本人からきくことができ、勉強になっ
 た。

(3) 研修Ⅰ 講義：障がい学生支援について

- ・大学でも授業のユニバーサル化は重要だと感じます。障がい学生だけでなく「先生が何を言
 っているかわからない」と訴える学生は多く、教員の授業のあり方が少しでもいい方向に変わ
 っていけばいいと思います。
- ・今後の大学の障害学生支援のあり方だけでなく大学の授業や修学に関わるすべてのところで
 UD化の整備やどんな学生にとっても学びやすい環境の大切さを学びました。

(4) 研修Ⅰ 講義：聴覚障がい者支援について

- ・ 実際の手話が印象的だった。影、服の色がどのように関係しているのか気になった。
- ・ 聴覚障害がある人が、自己理解や伝えることが難しい場合があるということが、新たな気づきでした。
- ・ 聴覚障がいのある学生だけではなく、聴覚情報処理に関して困難がある学生等多様な学生のニーズに答えられるような支援が必要だと感じました。

(5) 研修Ⅰ 講義：地域におけるノートテイク

- ・ 地域や生活の中での話をお聞きすることは初めてだったので新たな学びでした。大学ではピアサポーターという人的資源がありますが、地域ではどうなっていくべきかということを考えさせられました。
- ・ 地域でのノートテイクの話は初めて聞きましたが、身近な存在であることを初めて知ることができました。
- ・ 支援者の実務の実情が聞けて、とても心に響きました。

(6) 研修Ⅰ 講義：大学におけるノートテイク

- ・ ノートテイクが他の障害にも適用しうるため、「ニーズベース」というのが印象に残りました。学生を育成するという視点も非常に重要なので、今後大学でも尽力したいと思います。
- ・ 大学でのノートテイクについて、下中村先生の熱い思いをステキなストーリーを聞くことができて心あたりました。
- ・ 実際にどういう意図を持って行うのか考えながらノートテイクをすることの大切さを実感しました。

(7) 研修Ⅰ 講義：ノートテイクとの出会い

- ・ 当事者学生の話を知ったことは学生にとってとても大きな学びになったのではと思います。特に PCNT が入ることによってグループワーク授業が「楽しい」と思えるようになったという言葉はとても心にのこりました。
- ・ 当事者学生の生の声を聞いたのが非常に良かったです。情報保障が単に学修の機会の均等化だけでなく、対人関係にも広がっていくことがとても印象的でした。
- ・ 当事者の声を聞いて、ノートテイクが、こんなにも重要なのかと驚きもあり、障がいの有無にかかわらず授業を楽しむことができる手段ということが身にしみたような感じでした。

(8) 研修Ⅱ 演習・グループワーク ※参加した方のみ記入

- ・ 実際に体験してみて、難しさを知った。ただ文字を打つだけではなく、対「人」で相手に伝えることを意識する必要性を改めて感じた。
- ・ ただ速くうつだけでなく、「見やすく」というところにも配慮が必要だということに気づかされました。
- ・ 貴重な機会になった。本学でも導入できるように進めていきたい。

2. 大学間連携プログラムを踏まえて、ノートテイクを「広める」ために、自身の所属大学に戻ってからどのような行動を起こしたいと思っているかを教えてください。(一部抜粋)

・本学では現在聴覚障害のある学生が在籍していないため、実際に必要となった際に十分な配慮ができるように検討していきたいと感じました。

・「なぜノートテイクをするのか」、「何を伝えるためにノートテイクをするのか」等、情報保障の意識について改めて全体で考える機会を設けたい。

・学修機会確保のためのノートテイクや情報保障が、学修のために必要ということだけでなく、対人関係や「楽しく」大学生活を送ることにつながるということを啓発していきたいと思いました。

・今回、ノートテイクを実際行ってみて、難しさを痛感した。現在ニーズはないが、ニーズがあった時に学生を募集するという方法だと、とても十分でないことが、分かったため、ニーズがあった時に、対応できるように、学生への研修を行わないといけないと感じました。

3. 今後の大学間連携プログラム開催の参考とするため、希望する内容を選択してください(複数選択可)。

学であればオンライン長であれば対面・8月はやはり暑い

時期	学期期間中	1
	長期休暇中	32
	その他	2
形式	対面	25
	オンライン	4
	対面+オンライン	15
	その他	0
方法	講義	30
	演習	32
	その他	0
時間	半日(午後)	32
	1日(午前午後)	2
	その他	0
内容	視覚障害	9
	聴覚障害	11
	肢体不自由	4
	病弱・虚弱	7
	発達障害	19
	精神障害	16
	LGBTs	15
	バリアフリー	8
	ユニバーサルデザイン	14
	アクセシビリティ	7

時期-その他

学であればオンライン長であれば対面

8月はやはり暑いので6月、7月、11月、12月もい
いかもかもしれません

内容-その他

複数回実施で全分野受けてみたいです。

ここです！！LGBTsはほとんど行われてないです！

何でも

ダイバーシティ	10
インクルージョン	12
その他	1

4. 感想や質問などについて教えてください。(一部抜粋)

- ・他の大学の活動について知ることができて良かった。IPtalkの新しい機能を知ることができて面白かった。
- ・今後もこのような他大学（九州だけでなく全国）の交流があればいいなと思った。
- ・聴覚障害、障害者支援について、新たなことを知ることができた。パソコンノートテイクについても、話し合いながらいろいろな視点で考えることができた。
- ・ただ文字を表出するだけでなく、授業に参加するための見やすく疲れにくい表出について考えることができました。今後、支援に入る時は意識し、この考え方を他のテイカーにも意識してもらえるように伝えていきたいと思います。
- ・改めてノートテイクの重要性を感じました。ケースバリエーションの障がい学生支援において「なぜこの支援が必要なのか」「何のために」など常に考え続け、よりよい支援等につなげたいと思います。”障がい学生支援”について見つめ直す良いきっかけになりました。ありがとうございます。
- ・佐賀大学ではUDトークを使用しているので、方法は違いますが、他大学でも教職員への理解が進まないことを憂いておられることを知ったり、障害学生の学修環境を整えるためにノートテイクが重要な役割を果たしていることを改めて確認でき、ノートテイクを広めるためにもう少し工夫してみようと思いました。長くノートテイカーを続けてもらうためのコツなどはありますか。